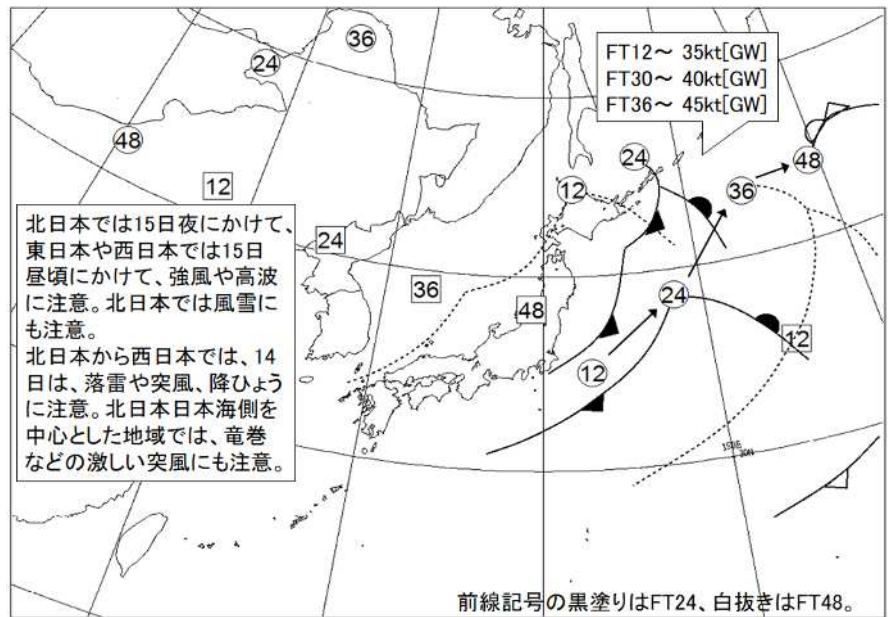


1. 実況上の着目点

- ① 沿海州の 500hPa 5280m～5400m には、 -36°C 以下の寒気を伴うトラフがあって、東進。トラフに対応する低気圧が日本海中部にあって東進。低気圧に向かって、850hPa θ_e 291K 以上の下層暖湿気が流入し、対流活動が活発となって日本海では発雷を検知。
- ② 伊豆諸島付近には、日本の東の高気圧の縁辺を回る東風と東海道沖を吹いている西風による地上のシアラインがあって、13日21時にシアライン上に低気圧が発生。
- ③ 華北に中心を持つ高気圧があって、南東へ移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは東進して、14日夜から15日朝にかけて北日本を通過する。トラフに対応する1項①の低気圧は発達しながら東北東進して14日朝には最大風速35kt [GW級]の勢力となり、前線を伴って北日本を通過し、14日夜にはオホーツク海に達する。一方、1項②の低気圧はトラフの接近に伴って発達しながら北東進し、15日朝には最大風速45kt [GW級]の勢力に達する。1項②の低気圧の発達によって、1項①の低気圧や伴う前線は15日朝には不明瞭となる。低気圧や前線の近傍では気圧の傾きが急となり、また、1項①の低気圧に伴う寒冷前線の通過後は下層寒気の流入が強まって14日夜から15日にかけて冬型の気圧配置となり、北日本を中心に雪を伴って強い風が吹いてしけとなる所がある。北日本では15日夜にかけて、東日本や西日本では15日昼頃にかけて、強風や高波に注意。北日本では風雪にも注意。なお、1項③の高気圧は日本付近に次第に張り出して15日夜には東日本付近まで移動するため、冬型の気圧配置は15日は次第に緩む。
- ② 1項①の低気圧に向かって、850hPa θ_e 294K 以上の下層暖湿気が流入し、1項①の寒気を伴ったトラフの通過に伴って、北日本から西日本では日本海側を中心に大気の状態が非常に不安定となる。北日本から西日本では、14日は、落雷や突風、降ひょうに注意。北日本日本海側を中心とした地域では、竜巻などの激しい突風にも注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSM基本とし、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

- 4. 防災関連事項 [量的予報と根拠] ① 大雨ポテンシャル(06時からの24時間)：高い所(100mm以上)はない。② 大雪ポテンシャル(06時からの24時間)：高い所(注意報級以上)はない。

③ 波浪(明日まで)：北海道・北陸4m、東北・近畿・中国3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表予定なし。